

本会の活動から

学術集会への参加等

- ・第103回日本消化器内視鏡学会総会が5月13～15日、「Imagination and Innovation with Intelligence」をテーマに京都府京都市でハイブリッド開催され、消化器診断部長の川崎成郎が参加した。
- ・第95回日本産業衛生学会が5月25～28日、「新しい時代の働き方と産業保健——持続可能な社会を目指して」をテーマに高知県高知市でハイブリッド開催され、理事長（検査研究センター長）の久布白兼行、常務理事（職域保健担当）の大畠利彦、総合健診部長の川井三恵、健康増進部長の菅原哲也、同次長の加藤京子が参加した。
- ・第57回日本小児腎臓病学会学術集会が5月27～28日、「小児腎臓病のエビデンスを紡ぐ」をテーマに沖縄県宜野湾市でハイブリッド開催され、理事（地域・学校保健担当）の阿部勝巳が参加した。
- ・第47回日本超音波検査学会学術集会が5月27～29日、「REBORN——技を磨き新たなステージへ」をテーマに東京都千代田区でハイブリッド開催され、検診検査部長の神宮字広明が参加した。
- ・第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）が6月10～12日、「Rapidly Advancing Cytology: Harmonizing Current Standards and New Technologies」をテーマに東京都港区でハイブリッド開催され、理事長（検査研究センター長）の久布白兼行と母子保健検査部長の庄司里香の他、職員3人が参加した。

坂佳奈子医師が日本乳癌学会 Best of Breast Cancer賞を受賞

がん検診・診断部長の坂佳奈子がBreast Cancer誌に投稿した論文「Breast cancer screening using digital breast tomosynthesis compared to digital mammography alone for Japanese women」がBest of Breast Cancer賞を

受賞した。

その授賞式が6月30日、第30回日本乳癌学会学術総会で行われた。

内山由里香技師が中央会の学術賞（児玉賞）を受賞

第55回全国予防医学技術研究会で、検診検査部の内山由里香が発表した「学校心臓検診での12誘導心電図の検討」が、予防医学事業中央会の第44回学術賞（児玉賞）を受賞した。

この発表は、学校心臓検診の12誘導心電図において心房中隔欠損症を抽出するための心電図所見を検討したものである。表彰式は2023年2月に石川県金沢市で開催される第56回全国予防医学技術研究会開会式で行われる。

坂佳奈子医師が『乳房トモシンセシスアトラス——乳がん検診での読影のポイント』を上梓

がん検診・診断部長の坂佳奈子が、本会でのトモシンセシス（3Dマンモグラフィ）の先進的な取り組みと研究成果に基づく『乳房トモシンセシスアトラス——乳がん検診での読影のポイント（Web動画付）』を医学と看護社から上梓した。監修は聖路加国際病院放射線科医長・乳房画像診断室長の角田博子医師。

令和4年度理事会、評議員会が開催

本会の令和4年度第1回理事会が6月9日に開かれ、理事長の久布白兼行を議長として、「令和3年度の事業報告と収支決算」「定時評議員会の開催について」などの決議が行われ、いずれも満場一致で承認された。

また、令和4年度定時評議員会が6月27日に開催され、柴田昭二評議員を議長に選出し、理事会で決議された「令和3年度の事業報告と収支決算」などの決議が行われ、いずれも満場一致で承認された。